

公表

事業所における自己評価総括表 (保育所等訪問)

○事業所名	児童発達支援センターにこっと		
○保護者評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47 家庭	(回答者数) 36 家庭
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 人	(回答者数) 4 人
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月5日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	19 施設	(回答数) 15 施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援事業の目的をはじめとする重要性が広く関係機関より理解されるようになり、保護者や学校をはじめ、各関係機関から温かく迎え入れてもらっている。	保護者に対して訪問時の具体的な支援や児童の学びの様子を報告書を通してお知らせすることにとり、確かな信頼につながっている。各種学校との連携も確かなものになっており、複数事業所がまとまって訪問できるよう日程調整などは大きな前進がある。また、些細なことであっても積極的にご助言させていただき、同じ歩調で児童への指導支援が行われている。	訪問先施設の先生方にとって意味のある保育所等訪問となるよう引き続き適切な助言・支援とスキルアップに努め、信頼の獲得につなげていきたい。
2	訪問支援を児童は好意的に受け入れ、にこっと職員の訪問を楽しみにしているという児童が圧倒的に多い。また、学校での様子を的確に保護者に伝えることで、安心感と信頼感を感じてもらっている。	児童にとって楽しい学校生活は、担任の先生との確かな信頼関係の上に成り立っており、その中核となる授業は、まさに真剣なやり取りとなる。このことを念頭に置いて、感謝の気持ちを持って授業中の真剣勝負の場に入室させていただき児童の学びを観察させてもらっている。	授業中の児童の姿は全員輝いている。その姿を静かに観察記録し、児童の頑張りや大いに認めるとともに一層の成長を引き出すことができるよう誉め励ましていく。また、保護者には授業の中で拾った児童の輝きをしっかり伝えていく。
3	訪問先の保育園や学校等より「訪問支援員の助言や説明はわかりやすく、質問に対して適時・適切に回答している。」との評価をいただき、職員一同の大きな自信と励みとなっている。	授業観察後の時間確保は、いずれの施設においても大変なことではあるが、僅かな時間、ピンポイントの話題であっても、情報交換の場は大切にしている。また、必要に応じて、電話等でお話させていただく場面も設けている。	支援の在り方で相互に確認したことを実践した際、センターでできることと保育園でできることにギャップがあり、うまくいかなかったという報告もあった。このような失敗例も新たな支援を具体化する上で貴重な情報となるので、負の要素を含めた多面的な情報の共有に努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や学校を訪問した際に、観察した児童の姿をベースとした先生方との意見交換をしたいと願っているが、時間の確保が難しい時がある。	互いに子どもに向き合う時間を最優先とするため、慢性的な多忙感もある中で情報(意見)交換の時間が確保できないという現実がある。	訪問時にはできるだけ担当の先生方と情報交換できる機会を設けたいと考えているが、諸事情により時間が取れないことも多く申し訳なく思っている。引き続き些細なことでも意見交換できるよう努力を継続していく。
2	訪問先の施設からは、「課題や困りごとの解消や軽減が図られた」という問いに、3割の施設から「どちらとも言えない」との回答を得た。我々のアドバイスがより先生方の支援となるよう一層の努力を重ねたい。	アドバイス、助言に係るコミュニケーションの場そのものが圧倒的に不足しており、場の確保と手段の方法を第一に検討する必要がある。	アドバイスや助言を構成する要素が単純であることが、正確に伝わることの大切な要件であることを自覚し、的確なアドバイスに一層努力する。また、より多くの方から助言によって課題解消に向かった、軽減したと評価してもらえるよう努力していく。
3			